

職場に残そう、
労働運動！



退職にあたっての挨拶

醍醐栄

昭和53年4月に入社して以来、早いもので46年が過ぎました。皆さまのおかげで無事定年を迎えることが出来ました。ありがとうございました。

私は1986年の西船橋～千葉みなと間開業時の車掌26名の内の一人で、開業前の訓練運転の頃から乗務しており、京葉線には大変思い入れがあります。その後、津田沼車掌区に転勤となり、同職場廃止に伴い、再び蘇我運輸区での京葉線乗務に戻った時は、昔何処もかしこも砂地だった京葉線の変わりように驚いたものです。

京葉運輸区、津田沼車掌区では、まるっきり男の職場でしたが、蘇我運輸区では女性も多く配属されて、華やかで明るい職場になり、ずいぶんイメージも変わったなと思いました。仕事にプライベートに張り合いが出ました。

住まいが蘇我駅の近くであり、新しいバイト先も本千葉駅からの近くなので、顔を合わせることも多いかと思います。気軽に声をかけて下さい。

皆さまの今後益々のご発展とご健康をお祈りします。



鈴木富士夫

6月末日を持ちまして、46年間の鉄道人生にピリオドを打つことになりました。今月21日に最終乗務となった206行路を無事終了した時やっと「ああ、終わったな、これで退職なんだな」と初めて実感することが出来、こみ上げて来るものもありました。両親や弟、家族、そして何より多くの仲間たちに支えられてこの日であることに、この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。お世話になりました。

長い鉄道人生の中では、数え切れないほどたくさんのお思い出がありますが、この紙面においては、やはり自分を成長させてくれた組合運動、労働運動について少し書きたいと思います。

国労運動で学べたことは勿論ですが、個人的には37年前、社青同（旧社会党の下部組織である青年同盟）に加入し、様々な職種の労働組合の仲間たちとの交流で学べたことが、後々まで自分が生きていくうえでの基本になったのではと思っています。

なので、7月から組合員資格を失うことになっても、自分が今後どう社会と向き合っていくべきかも多少は心得ているつもりです・・・多分。

ただ、ここ数年は「職場に労働運動を残す」ことに力を入れてきたつもりですが、中途半端な状態で職場を去ることが、少し心残りではあります。でも絶対労働運動は残ると信じています。社会的にも社会全般でも大変厳しい状況となっていますが、是非、若い人たちには「正しいことは正しい、おかしいことはおかしい」と躊躇することなく、声を上げてほしいと思います。労働運動の基本は自分の職場、そして自分の足元であります。共に頑張りましょう！！

そして、国労現役、OBの皆様には「ここまできたら健康第一！」ということで長生きしましょう！

送別会：7月8日（月）15時～西千葉餃子軒